

O022-P17

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

白山手取川ジオパーク構想について Plan for Hakusan Tedorigawa Geopark

日比野 剛^{1*}, 山口 隆¹

Tsuyoshi Hibino^{1*}, Takashi Yamaguchi¹

¹ 白山市教育委員会

¹ Hakusan City Board of Education

石川県白山市では、白山手取川ジオパーク推進協議会を立ち上げ、2011年の日本ジオパーク登録を目指している。

白山手取川地域は、霊峰白山のもと、白山国立公園や、手取川、日本海など、豊かな自然に恵まれた地域である。クロユリなどの高山植物や山腹に広がる日本有数のブナ林とそこに住む多様な動物など、その自然性の高さが評価され、ユネスコの生物圏保護区にも指定されている。

越前、加賀、美濃などの広い範囲から、初夏にも雪を頂く姿が望まれる白山は、古より「越のしらね」として都人にも知られ、多くの和歌などに詠まれてきた。崇高な山容は神仏の聖地として、また、水の源や航海の目印として人々の信仰を集め、日本三名山の一つに数えられている。また、白山を源とする手取川は、いくつかの支流と合流したのち石川県随一の穀倉地帯となる加賀平野に至って西流し日本海に注ぐ、県内最大の流域を誇る河川である。

地質的には、2億数千万年前の飛騨変成岩類を基盤として、1億数千万年前の大陸を起源とする大河川の流域堆積物である手取層群、中生代から新生代の濃飛流紋岩類、グリーンタフと呼ばれる新生代の火山岩類、そして新旧の白山火山噴出物と変化に富んでいる。加えて、それらの地層を削る手取川により作られた上流部から河口域での地形も多岐に渡る。また、こうして作られた地形と、暖流が流れ込む日本海などの影響を受けたこの地域は、狭い範囲内で水の循環を生み出し、世界的にも稀な低緯度の多量積雪地帯となっている。

このような地質及び地形を元としたこの地域の人々の暮らしは様々で、白山及び手取川によりもたらされる恵みとともに、災害の歴史なども各地に残る。太古の時代から現在まで、いつの時代においても火山活動や河川などの水の存在は影響も大きく、有史以来そこに暮らす人々の生活もまた周辺の自然に寄り添ったものとなっている。

このように白山手取川一帯は、水の惑星地球が作った自然、及びそのような自然と人間との共生を体感できる場所である。

白山手取川一帯では教育・ガイド活動も各地域で行われている。なかでも、桑島化石壁など市内の手取層群産出化石調査を目的とした『桑島化石調査隊』は、様々な調査活動の指導を受けながら、生涯学習の場も兼ねたボランティアとして活動している。参加者は小学校4年生から70歳代まで幅広い。近い将来、桑島化石調査隊のなかから、古生物・地質の研究者が誕生することが期待されている。

キーワード: 白山, 手取川, ジオパーク, 白山市, 石川県

Keywords: Mt. Hakusan, the Tedori River, Geopark, Hakusan City, Ishikawa Prefecture